

鳥獣の 保護管理 被害対策

サルの被害を防ぐ！

～ サル群れの生息数調査と効果的な侵入防止柵の開発 ～

研究の背景・目的

島根県におけるニホンザル

- ・1989年調査：旧21町村、58群れ、約2200頭
捕獲などの影響で減少
- ・2001年調査：旧22町村、36群れ、約1300頭
- ・日本固有の霊長類

島根県におけるニホンザルの被害

- ・約30～40年前から農林作物に被害発生
- ・H19年の被害金額は約480万円
- ・シイタケほだ場や家庭菜園の農作物に被害

**最新の群れ分布・生息数の把握
と、安価で効果的な侵入防止柵の
開発**

市販の侵入防止柵には、高い侵入防止効果を認めるものもありますが、設置コスト(2,000～4,500円/m)が高くて自家用菜園などには向きません。

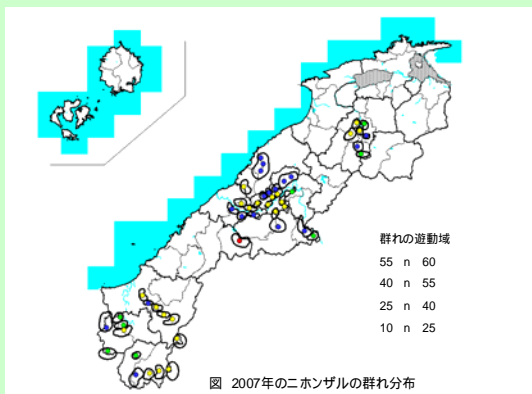
研究方法

最新の県内の群れの分布と個体数の推移を把握して、保護管理の基礎資料とします。

2005年度に新たに開発(家庭菜園用)した低コスト(1,400～1,700円/m)の侵入防止柵(電気柵)の効果を実証します。

研究状況

2007年の生息数調査によって、約49群れ、約1,790頭が生息していることが分かりました。これらの群れは3地域に分かれて生息していました(図)。群れは11市町に生息し、各群れの個体数は10～60(平均37)頭でした。共同研究によって開発した下部が金網フェンス、上部が3段電線の電気柵は、効果は認められましたが、設置にかかる労力が課題でした。一方、当センターが考案した下部がワイヤーメッシュ、上部が1段電線タイプの電気柵(写真)は、高い侵入防止効果が認められ設置も容易でした。



研究成果の活用

低コストの侵入防止柵の設置を普及します。ただし、ロケット花火などによる追い払いや誘引物の除去などを併用していくことが、効果を継続させていくには必要です。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

所属グループ 鳥獣対策グループ

担当研究者 澤田 誠吾(さわだ せいご)

問い合わせ先 0854-76-3819

E-mail: chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名：ニホンザルの保護管理と被害回避技術の確立

～ 生息数の推移把握と新たな侵入防止柵の効果実証～ (H18～20年度)